

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



藤の首途 天

~ 5
2104
1



門利5
2104
巻13



藤の首途

詠別辭

藤年 藤氏遺愛之記

明治三十五年四月廿四日
藤年 海氏寄贈

蓮二房

藤の首途の詠別辭
藤年 藤氏遺愛之記
藤年 海氏寄贈

襖袍の情と
 十二余年
 我や在禱よ
 若とちよ
 君との
 本推
 友
 海

其ゆよ
 信
 海
 君
 君
 君
 君
 君
 君
 君

右

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a Japanese text. The characters are dense and flow across the page.

源氏行

下野野田

十一卷

Main body of handwritten text on the left page, including several lines of cursive script. The text appears to be a continuation or related to the right page.

若上

三

行燈のしるしを、手紙 舟の影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

右

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

かきつらぬの 影の 舟の 影の 影

仔細讀のこころのつらき好むる 侃如

初灯巻のくささ 高所 又新山

高くもあつて 夫婦よりのわ 達支 高松連中

くささ 松と 松よりのわ くら

高所のふつと 松よりの中 摩山

新法の祖父のよきわ 松よりの 蓮流

松のふれを 松よりの月 荷下

高所のふつと 松よりの松よりの 雲曲

^{ニウ} 高文入の神よ 松の真のつら 竹ノ葉 規公

高のつら 松よりの松よりの松よりの 里紅

高のつら 松よりの松よりの松よりの 作角

高のつら 松よりの松よりの松よりの 落伴

高のつら 松よりの松よりの松よりの 其松

高のつら 松よりの松よりの松よりの 馬臺

高のつら 松よりの松よりの松よりの 大植連中 丰彦

高のつら 松よりの松よりの松よりの 里紅

清くくせし産の小峰を 陸五

うつくし鳥よささびの里 赤草

山揚く詠燒しの上敷お流 三位

うつくしよ化の露を氣せよ 石竹

三 遠るよ一日桑とよ中らるれ 神戶連中 李仙

保えよ法さごとく伊賀人 里紅

漏桶しきおよよ霧の飛も川 仙折

故も海り舟く舟賃備え 赤石

夏鷹秋より川おと起しくれ 木公

赤坂屋の書も今もの本 桂碩

はるしあふねい仲るのちおろ子 伊呂連中 越水

・ 眞ん中よよや信をえぬ 里紅

うつくし鳥よささびの里 足巳

うつくし鳥よささびの里 赤井

母のうつくし鳥よささびの里 柳意

猫心大蛇の曲しよりしん 揚岐

之味深しきまゝの師をのぢし寺 北方連中 琴が

神鹿灯し雪の相牽 つら

三箇いしなまし人き踏ちらひ 長

停豫の心取の目私るくあ 以柳

つらしきととホきよしちのき 音山

し柳心ま 夢

[Faint bleed-through text from the reverse side]

享保五年のまを連なる人の言はきりて

荷は行時とありきならぬはる我師の

漂流し二十余年の昔よりて白夷の

何れもあ 頻進

しりき 鳥標松と標

ま 今く

眉目 師法と

あ 師法と

ちよとゆふのそらに雲の影を
 はてしなく見よ杜宇の啼きを
 敬とてとくふさの隅のつらさ
 4時の首途もまはる

唐え坊
 里紅

あはれはなほのぬきやまはりに

On the Way to Ezo from Hakodate
 秋の風

近5

めもはくたはるくまの海道の
 舟角亭より一とどろき

舟角

故郷よりよすやへの上の望み

客居人よ其れこそ運よ水か
 舟脚ありて今もさの西のつらさ
 右のそ運をゆきしれ

舟角

筆とわねや首途の村のをし

洛陽

友のそ途とや目的

しよと身一

柳好

百河

信生く誇る友のほけふ

あともくく 強さのち

山

おゆるといふ庭のふと誇るて

山

各題送行路程

到才五格

みよやう格のこつち

山

到大佛

大仏やるかへ

山

到福河

おのりもとて

山

到有表

五部(よ)へか月のあはれ

山

到休見

かいつちよへ

山

根津

新波の浪生と

るな

里江

ふしきうし月やあしあしなま

二のふりまのむねのむね 野坡

ふしきうし月やあしあしなま

るな

根津

根津の浪生と

尾の浪生と一里江の浪生と
今津と一里江の浪生と
今津と一里江の浪生と
今津と一里江の浪生と
今津と一里江の浪生と

浦の浪生と一里江

今津と一里江の浪生と

るな

今津と一里江の浪生と

花座の入り函へてむすしはあふ
らんゆりきりもあふまきしはあふ

一花のあふりやほはれしあふ

花か行

平哉

あしきもあふりやあふり

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

編 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強

張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強

張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強

張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強

張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強

張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強

張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強

張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強

張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強

張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強

張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強

張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強 張 強

名録

文社のまわりの名録 張 強 張 強 張 強

故郷のまわりの名録 張 強 張 強 張 強

新くあつたものとしてあつたはたしな 柳梨

板木のちいさなちのりや 勿桑

陰翳の傳へるりて新に 吳張

のまわりのくさしな 美由

註別

るはのちとあつたはたしな 一編

あつたものちいさなちのりや 南桑

陰翳のくさしな 吳張

長龍もあつたはたしな 正書

今とはちいさなちのりやちいさくは
くさしなちのりや

新くあつたものとしてあつたはたしな

あつたはたしな

柳梨のちいさなちのりや

あつたはたしな

あつたはたしな

清き水に身を清くし女を嫁ぐは世にめでたし

一六三三

いづれの世にもいづれの人にもいづれの日にも

携磨

いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも

いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも

いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも

和又の心の中へ
いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも

いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも
いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも
いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも
いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも
いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも
いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも
いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも
いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも
いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも
いづれの日にもいづれの人にもいづれの日にも

巻上

巻上

۱۱۱

۹۵۵۶۷۸۹۱۰۱۱

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰۱۱

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰۱۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰

۱۱۱

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰۱۱

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰۱۱

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰۱۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰

۱۱۱

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰۱۱

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰۱۱

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰۱۱

۱۲۳۴۵۶۷۸۹۱۰

...
...
...

...

...
...

...
...

...
...

...
...

...

...

...

Handwritten text in Arabic script, top right of the right page.

Handwritten text in Arabic script, middle right of the right page.

龍野

Handwritten text in Arabic script, below the section header on the right page.

Handwritten text in Arabic script, middle of the right page.

Handwritten text in Arabic script, bottom of the right page.

備前

Handwritten text in Arabic script, top of the left page.

Handwritten text in Arabic script, middle of the left page.

Handwritten text in Arabic script, bottom of the left page.

Handwritten text in Arabic script, very bottom of the left page.

内中

吉徳の中へはさしなす
 吉徳はなすはなすはなすはなす
 負あつたては佛徳とす
 佛徳とすはなすはなすはなす
 一はなすはなすはなすはなす
 一はなすはなすはなすはなす

福の心はなすはなすはなす
 の

福の心はなすはなすはなす
 の

福の心はなすはなすはなす
 の

福の心はなすはなすはなす
 の

福の心はなすはなすはなす
 の

福の心はなすはなすはなす
 の

福の心はなすはなすはなす
 の

此の歌は、
 あまのこゝろのほろけりて
 ちかぬけのうらみとて
 ちかぬけのうらみとて
 ちかぬけのうらみとて
 ちかぬけのうらみとて

いづれのちかぬけ

あまのこゝろのほろけりて

ちかぬけのうらみとて

短歌行

あまのこゝろのほろけりて

里江

あまのこゝろのほろけりて

里江

あまのこゝろのほろけりて

里江

あまのこゝろのほろけりて

里江

あまのこゝろのほろけりて

里江

あまのこゝろのほろけりて

里江

なくと癒の心の程うけ

百選

後の地を赤くも赤くも赤くも

三編

千鶴を鳥もさるる程うけ

白虎

こゝと一をうけの泣き

故要

ひと抱ひのけしめてかぬのむ

百選

なると人姫草のむきも跡をい

其意

晒橋をうけかたもをうけて

其意

素をうけて夏ののむきも

其意

なると人姫草のむきも跡をい

其意

なると人姫草のむきも跡をい

其意

なると人姫草のむきも跡をい

其意

なると人姫草のむきも跡をい

其意

なると人姫草のむきも跡をい

其意

なると人姫草のむきも跡をい

其意

なると人姫草のむきも跡をい

其意

なると人姫草のむきも跡をい

其意

おととちかふいふとちかふいふ
ちかふいふとちかふいふとちかふいふ

名録

柳はちや柳はちやのさささ
の園おちかふいふとちかふいふ
ちかふいふとちかふいふとちかふいふ
柳はちや柳はちやのさささ

ちかふいふとちかふいふとちかふいふ
ちかふいふとちかふいふとちかふいふ
ちかふいふとちかふいふとちかふいふ
ちかふいふとちかふいふとちかふいふ
ちかふいふとちかふいふとちかふいふ
ちかふいふとちかふいふとちかふいふ
ちかふいふとちかふいふとちかふいふ
ちかふいふとちかふいふとちかふいふ
ちかふいふとちかふいふとちかふいふ
ちかふいふとちかふいふとちかふいふ

あはれはあはれとくらふとくもあはれはあはれなり

あはれの中へ、世界のあはれなる

あはれの中へあはれなるあはれなるあはれなる
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなる

あはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

